

ルワンダ月報（2024年10月）

※以下は、ルワンダ主要メディア（RNA、New Times等）の記事取りまとめ。

1. 政治・外交

10月もカガメ大統領は積極的に外遊を行い、1日～3日にラトビア訪問（リンケービッチ大統領及びシリニャ首相と会談）、3日～5日にパリ訪問（第19回フランコフォニー・サミット出席、マクロン大統領と首脳会談）を行った他、23日～26日にはサモアを訪問（英連邦首脳会議(CHOGM2024)に出席）。特に、5日に行ったマクロン仏大統領との会談においては、両首脳は二国間の協力関係強化に加え、不安定な大湖地域に関して根本原因に対処する必要性を強調した。同地域情勢については、ンドゥフンギレへ外務大臣が14日に行われた第5回ルワンダ外相会合に参加したが、FDLRの非武装中立化を条件に、ルワンダ軍が防衛的措置を撤廃するとの案へのコンゴ（民）が反対を表明し、具体的な成果は得られなかった模様。

その他、外交面では、ルワンダは23日にサモアとの国交を樹立した他、31日にはマラウィとの航空協定に署名した。

内政においては、21日、閣僚の一部交代が発表され、地方自治体大臣にパトリス・ムケンジ氏が、農業・動物資源大臣にはマーク・キュバヒロ・バガベ氏がそれぞれ就任した。

2. 経済

ルワンダの成長率について、IMFは、2024年の実質GDP成長率は8.3%と予測しており、債務格付は「B+：安定した見通し」としている。一方、世銀は2024-2025年の予想平均GDP成長率は7.6%としている。

国内経済に関して、ルワンダ統計局が10日に発表した前9月の消費者物価指数（CPI）では、2023年9月に比べ都市部でのCPIが2.5%上昇した他、2023年9月から24年9月の年間平均インフレ率は5.7%となっている。

世銀が3日に発表した「Business Ready 2024」（投資環境等の国際比較）において、ルワンダは、世界50カ国の中で、運営効率（3位）、公共サービス（8位）、規制枠組（17位）において高点数を獲得した。

各国からの援助については、ルワンダ政府は、8日にドイツ開発銀行との間で1,500万ユーロの貧困層支援に係る文書に署名した他、中国からの電気バス支援に係る引渡式を行った。さらに、23日には、緑の気候基金がグリーンシティ・キガリ・プロジェクト（低炭素社会を実現する都市開発プロジェクト）支援のための2,800万米ドルの助成金を承認した。

3. その他

11日、キガリ訪問中の安藤JICA理事が、ンドゥフンギレへ外務大臣と会談し、引き続きの協働の可能性について議論を行った。21日には、WHOのテド

ロス事務局長がルワンダを訪問し、ンサンジマナ保健大臣と会談を行い、ルワンダによるマールブルグ病対策におけるWHOの支援を確認した。